

「平成 29 年度 乳児保育研修会」報告書

【期 日】 平成 29 年 11 月 9 日(木)

【会 場】 ロイヤルチェスター佐賀

【主 催】 佐賀県保育会

【参加者数】 123 名

【内 容】 研修 1 「基調報告」 10 : 00 ~ 10 : 20

講師 : 指山 健次郎 氏 (佐賀県保育会会長)



研修 2 (1) 「親子の絆への支援 (親と子の共育ち) 10 : 30 ~ 12 : 00

(2) 「タッチケアとその実践」 13 : 00 ~ 16 : 00

講師 : 橋本 武夫 氏

(社会福祉法人 若楠副理事長、若楠児童発達支援センター長

聖マリア学院大学看護学部客員 教授)

研修 1. 「基調報告」

講師 : 指山 健次郎 氏 (佐賀県保育会会長)

子ども・子育て支援制度の概要

1. 待機児童の状況 (年齢別・都道府県別) について
2. 子育て安心プラン・6つの支援パッケージのおもな内容について
3. その他

親子の絆を結ぶ・・・ラブイズ・フォーエバー (朗読)



研修2. (1)「親子の絆への支援（親と子の共育ち）」

～児童虐待への対応を含めて～

講師：橋本 武夫 氏

(社会福祉法人 若楠副理事長、若楠児童発達支援センター長
聖マリア学院大学看護学部客員 教授)



◎社会問題急増の児童虐待の実態

- ・ 対策の問題として、児童相談所を中心とした連携システム早期発見、児童福祉法による報告義務はあるが、どうして予防はないのか？
育児の問題としてその子どもたちが乳児期にどう育ったのか？ その子どもたちには乳幼児期に「心の故郷」がなかったのではないか、愛着の構築が重要なポイントとなっていると考えられる。(人間形成の基本は、乳児期の愛着形成から)

◎子育て構造の破壊の危機～最近の子育て事情から～

※子どもが抱かれていない、子どもがあそべていない。

赤ちゃんとのふれ愛、遊びに不安を抱える母親が多いのが現実であり、今あらためて愛着形成の必要性、ふれ愛の大切さが強調されている。

○母乳育児は愛着構築の第一歩

- ・ パースカンガルーケア（早期母子接触）・・・生後2時間が究極の育児の原点

五感を元にお母さんの情報を脳にインプットすることにより、育児放棄や虐待率が少なくなるという研究データがでている。

○愛着形成のために・・・

胎児、新生児、乳児期の母子間コミュニケーションの中で構築される

原点は乳児期の3要素「抱いて・語りかけて・おっぱい」から

母性愛ホルモンとしてのオキシトシンとプロラクチンの作用で、子どもを生んだ女性を母親に変え、母乳育児という授乳行為による母子の絆の構築が虐待予防の第一条件となる。

○母乳育児と自然卒乳

自然卒乳（児主導型）は赤ちゃんが自らおっぱいを必要としなくなるまで待つこと
生活習慣病予防にも母乳が効果を示している。

○真の保育・親業とは？

子どもから教えてもらったという感覚の積み重ねが真の親子、真の保育士となる

◎子育ての基本

○乳児期は心の安定を築く（愛着構築）

○3歳の子どもの特徴（自我の芽生え期）・・・自然卒乳後、自立の階段を上るときは、手を出さずにそっと見て待つ（親業）

保育園で自然と戯れ、遊び、けんか、いじめ等この時期に体験することで、社会性、ルール、我慢、おもいやりを学ぶことになる（子どもが主役、保育者はコーディネーター）

研修2（2）「タッチケアとその実践」

～発達障害もどきへの対応を含めて～



○医師が伝えるタッチケア（DVD 視聴）その広まりと最近の知見～

○NICUに保育士を導入・・・保育士による自然発生的なタッチケア

○タッチケアのころはふれ愛・・・ふれあい Hug、ゆする、さする、手を置く

・心を込めてふれあうとお互いに癒される・・・安心感、満足感、幸せ感（認知脳科学）

・オキシトシンの効果（親）母性行動・幸せ感・ストレス耐性（子）静睡眠・安らぎ

・タッチケアの広まり・・・NICUの保育器の中から～家庭、保育園、小児科病棟～

・叱るときの3秒ルール・・・誉めるのは即座に、叱るのは3秒待つ！

（3秒待つだけでかなり冷静になれる）

・タッチはことばで伝えられない微妙な感情をよりの確に伝えられる優れたコミュニケーション手段である。（どうしていいかわからない時、ただ黙って抱きしめてあげる）

・何となくおかしい子への対応・・・反応性と応答性のキャッチボールが子どもの心を育てる第1歩！（Hugは抱かれた人が安心を感じるだけではなく、抱く人を安心にする）

◎やさしい「タッチケア」について

- ・ベビーマッサージ DVD 視聴・実践・・・中原先生指導
- ・その子に応じて、スピードを合わせる。
- ・赤ちゃんの機嫌のいいとき、ゆっくり、ゆっくりすすめていく。
(機嫌が悪い時は、効果がないといわれている)
- ・♪童謡や手遊びの歌に合わせてゆっくり♪
- ・身体場所は何処からはじめても構わない(赤ちゃんが嫌がらない場所から)

(報 告)

研修2(1)の「親子の絆への支援(親と子の共育ち)」では、虐待発見への対応として、愛着の重要性をどのようにサポートしていくか、保育園、幼稚園でこそ観察が重要であり、どんな小さなことでも見逃さないことが予防へと繋がることを含めてもう一度職場全体で考えていく必要があると感じた。

愛着形成の原点である「抱いて、語りかけて、おっぱい」の理念を大切に優しく子どもに寄り添う保育を心がけていきたい。

研修2(2)の「タッチケアとその実践」～発達障害もどきへの対応を含めて～では、タッチケアの始まりが NICU の保育器から、保育士を導入して始まり様々な効果が現れたという、まさしく私たち保育士の専門性が赤ちゃんに大きな影響を与えていること、ふれ愛の大切さを深く感じた。

気になる子への対応としての Hug & タッチの重要性、効果についても実践を交えて理解を深めることができ、親子の絆の構築を支援するタッチケアが、子育て支援の保育現場でも重要な手段であり、今後の活動として広がっていくものと感じた。

(文責：海童保育園 森田 月子)